1997.8

市民中心の政治実現のために

―韓国、米国、中国、北朝鮮訪問と国会報告

於　一九九七・八・二一　札幌

今日は九月末から始まります臨時国会で議論されます医療制度改革を含めた改革の問題と、日米ガイドラインの問題などについてお話をさせていただきたいと思います。実は八月の上旬に中国と北朝鮮に行って来ましたので、そのことから少しお話をさせていただきたいと思います。

中国・北朝鮮訪問記

八月の七、八、九日と中国の吉林省の延辺自治区というところがありまして、そこの延吉という町でシンポジウムがありました。出席したのは韓国、中国、それから日本からは私たち民主党と、竹中一夫さんや武者小路公秀さん、金森久雄さんなどの経済学者の方々が五人ほど参加して、中国、韓国、アメリカ、日本で、豆満江地域の開発の問題と、朝鮮半島の平和という二つのテーマで話し合いをしました。このシンポジウムは韓国の東北アジア平和センターという慶北大学の先生方を中心として、それに韓国国会議員の人が加わって行われました。会場になりましたホテルというのは韓国の資本が建てたホテルでして、韓国の観光客がたくさん来ていました。ちょうど白頭山の観光がここから出来るんですね。白頭山というのは朝鮮の人にとって一度は行ってみたい神聖なる山でして、いまは北朝鮮から行けないものですから、韓国の人たちは中国から行くということで、飛行機もホテルも超満員でした。

このシンポジウムをバックアップしたのが、地元の延辺科学技術大学という大学でして、これも実は韓国の人がつくった大学なんです。スタッフはほとんど半分以上が韓国の人、ソウルから来たスタッフで運営、経営されています。私どもはその大学の総長の案内で、北朝鮮の羅津・先鋒という地域に一泊二日で行ってまいりました。その羅津・先鋒というのはちょうど中国と北朝鮮、ロシアと北朝鮮の国境を流れている豆満江を渡って二時間程度のところにある都市です。この地域は朝鮮半島の本当に北の一番端でして、緯度からいうとちょうど北海道の札幌くらい、北緯四二度から北緯四三度という地域でした。延吉からバスでだいたい五時間かかるのですけども、中国のほうは素晴らしい高速道路ができていまして、一時間くらいで琿春という町まで高速道路で行き、そこから一時間半は山道です。そして国境である豆満江の橋を渡るわけなんですけども、五〇〇メートルくらいの橋を渡って国境で手続きをして、そしてその国境から羅津・先鋒という町までまた二時間半、二時間半のうち一時間半くらい山道ですから、全部で約三時間は

山道です。ちょうど昔の北海道の稲穂峠だとか中山峠のように、道路がくねっているところを人力でたわけですが、北朝鮮側に入りますと農村地域が広がっているわけですね。

農村地域の農作物は、私はもちろん素人ですけれども、見るところトウモロコシとか馬鈴薯とか、それから家の回りでは豆だとかトマトだとか、それから道端ではスイカなどを売ってますから、そんな意味では出来は別に悪いとは思いませんでした。農村地域では自由市場なども一か所立ってまして、こういうことは北朝鮮ではいままで認められていないことなんですね。この地域だけこの七月からそういう新しい、外に開かれた地域として経済自由特区ということで開かれている地域なんです。農村地域で行き交う人々は結構ちゃんとしていると言いますか、身綺麗にこざっぱりしていて、表情豊かにお喋りしたりして歩いたりしているんですが、ただ、自動車やバスなどはもうほとんど動いていない。つまりガソリン不足ですね。そういう状態ですから、バスを待つのにわーっと人が集まっていましたが、バスが来るのか来ないのか、そういう感じでございます。

北朝鮮―羅津・先鋒経済自由特区の現況

羅津・先鋒という町に入りますと、そこはやっぱり農村地域と相当違いまして、先鋒というところには火力発電所があるんですが、これは動いてました。煙をモンモンと吐いて稼働していまして、したがって夜になっても街の明りが消えるということはありませんでした。もちろん日本や中国の夜景に比べると明りは圧倒的に少ないわけですけれども。しかしそれでもホテルなどは夜にはもちろん電気がついているわけです。

泊まった羅津のホテルというのも実は韓国の資本が三～四年前に建てたホテルなんです。これはもう普通のホテルでして、日本でいいますと中の下くらいのホテルですが、七階建てくらいで部屋の数も結構ありまして、地下にはディスコなどもあって、そこは北朝鮮のお客さんではなくて中国の観光客でいっぱいなんですね。我々なんかは、北朝鮮は物凄く閉鎖されていて、中国とも仲が良くないと思ってますし、それから北と南も物凄く対立しているというように思いますが、朝鮮半島でいうと韓国と北朝鮮は同じ民族ですから、そういう意味ではやっぱり交流というのはあるのだなということを本当に感じました。

ホテルの交換レートというのはおもしろいのですが、そのホテルのある経済自由特区では一ドル＝二〇〇ウォンなんですね、一ドル＝二〇〇ウォン。平常の交換レートは一ドル＝二ウォンなんです。だから通貨をこの地域だけ一〇〇分の一切り下げたんです。ですから、ホテルで朝鮮人参のお酒を買ってきたんですけども、日本円で八〇〇円くらいです。だから通貨の切り下げをしてない平常で買えば八万円ということになるわけですね。ですからあの地域だけの実験なんですね。実験をようやく始めたという感じでした。

街の人々はどうなっているかといいますと、その羅津には石油化学コンビナートがありまして、これは実は北朝鮮自慢の勝利化学というコンビナートだったんですが、これはもう完全に止まってました。ですとで、軽水炉の発電所を造っているわけです。その完成までのバックアップとして重油を人道援助しているんですね。その重油による火力発電所は動いていました。煙をモンモンと吐いて稼働していまして、したがって夜になっても街の明りが消えるということはありませんでした。もちろん日本や中国の夜景に比べると明りは圧倒的に少ないわけですけれども。しかしそれでもホテルなどは夜にはもちろん電気がついているわけです。

泊まった羅津のホテルというのも実は韓国の資本が三～四年前に建てたホテルなんです。これはもう普通のホテルでして、日本でいいますと中の下くらいのホテルですが、七階建てくらいで部屋の数も結構ありまして、地下にはディスコなどもあって、そこは北朝鮮のお客さんではなくて中国の観光客でいっぱいなんですね。我々なんかは、北朝鮮は物凄く閉鎖されていて、中国とも仲が良くないと思ってますし、それから北と南も物凄く対立しているというように思いますが、朝鮮半島でいうと韓国と北朝鮮は同じ民族ですから、そういう意味ではやっぱり交流というのはあるのだなということを本当に感じました。

ホテルの交換レートというのはおもしろいのですが、そのホテルのある経済自由特区では一ドル＝二〇〇ウォンなんですね、一ドル＝二〇〇ウォン。平常の交換レートは一ドル＝二ウォンなんです。だから通貨をこの地域だけ一〇〇分の一切り下げたんです。ですから、ホテルで朝鮮人参のお酒を買ってきたんですけども、日本円で八〇〇円くらいです。だから通貨の切り下げをしてない平常で買えば八万円ということになるわけですね。ですからあの地域だけの実験なんですね。実験をようやく始めたという感じでした。

街の人々はどうなっているかといいますと、その羅津には石油化学コンビナートがありまして、これは実は北朝鮮自慢の勝利化学というコンビナートだったんですが、これはもう完全に止まってました。です

から多分、数千人の失業者が出ているだろうというように思います。街の中は全く色もない音もない社会なんですね。やっぱり何かちょっと不思議な感じがいたしました。特に中国から北朝鮮に入ったものですから。中国というのはもう自転車がわーっと走っていて、自動車がブーブーと鳴らしながら走って行く。街には騒音があるのが普通ですよね。それから、街を見るとだいたい道路の両側にお店がいっぱいあっていろんな看板が出ていて、そして人々が動き回っている。ところが中国と違って北朝鮮では自転車も走っていないわけです。自動車も、動いているトラックやなんかはほとんど中国のトラックなんですね。北朝鮮の車はほとんど走っていない。そして街の中では人々がしゃがんでいるんですね。四～五人でかたまっていたり、一人ぽつんとしゃがんだりしていまして、何というか元気がないといいますか、表情がちょっと無表情という感じで、そんな静かな街でした。まさにこれは政治の責任だと思います。北朝鮮の国民は本当に可愛そうだなという思いで眺めてまいりました。街の周辺の農村地域のトウモロコシはまだ穂なんか出ていないんですね。ですからあの辺はやはり駄目なんだろうと、物にならないんだろうと思います。

一致している米・中・韓の北朝鮮への対応

北朝鮮には政治的にいまの金正日政権に反対する勢力はないんですね。反対する勢力はないんです。そして軍を掌握してますし、政治的には安定しているというようにアメリカも中国も見ています。私はアメリカへ行って、今回の米朝交渉をした交渉責任者の方で一人はブリチャードというアメリカの国家安全保障会議の担当責任者、それからもう一人は国務省の韓国部長でいまはもっぱら北朝鮮と対応している責任者で、前は札幌総領事館にいたミントンさんという方なんですが、この二年間は非常に苦労しながら交渉を積み重ねてきたという話をこの二人から聞いたわけですが、その二人のお話を聞いても、いまの政権そのものというのはちゃんと機能していると、極めて正常に、正確に物事を判断する能力を持っていますよと。これは韓国もそうですし、今度のシンポジウムで韓国の皆さんの統一した意見はなにかというと、韓国では北を吸収・統一と言ってきたわけですが、韓国には現在その力は経済的にないから、なんとかいまの政権が自立して、改革路線を取って国際社会の中の一員に入るようにソフトランディングを応援しようということなんです。いまのアメリカもそうです。

いまの政権を相手にして、いまの政権を支えて、あの政権が崩壊してしまって戦争になったり混乱が起きたりするのは避けようというのはもう明確なアメリカの意思であり、中国の意思であり、同時に韓国の意思でもあるんですね。日本はあまり明確な意思を持たずにいるものですから、アメリカに行っても、中国に行っても、韓国に行っても、「もっと北朝鮮をバックアップしてやって下さいよ」という声が、アメリカの国務省や国防総省の幹部からも、それから中国の外務省のほうからも、韓国のそういう学者の方たちも言っている状況です。

私は今回北朝鮮も含めて行ってみましたが、朝鮮有事という議論が日本で物凄くありますよね。「朝鮮有事になったらどうするのか」こういう議論をおもてで議論している国は日本だけなんです。みんなおもてで議論していることは有事にならないようにどうするかという議論なんですね。アメリカでも、中国でも、韓国でもそうです。もちろん軍などではいろんな最悪のシナリオを想定してどうするかということを、アメリカ軍も、韓国だって、中国だってやっているに違いないと思います。